



図書館の歩み

- ・昭和 26 年
公民館図書室として開設
(蔵書 300 冊)
- ・昭和 27 年
館外貸し出し開始
- ・昭和 53 年
図書館雑誌で利用率全国一の
図書室として紹介される
- ・昭和 59 年
図書館開館
- ・昭和 61 年
図書貸出率 (昭和 60 年度)
日本一達成
- ・昭和 62 年
図書年間貸し出し
10 万冊達成
- ・昭和 63 年
図書貸出率日本一達成
- ・平成 6 年
開館後図書貸し出し
100 万冊達成
図書貸出率 7 年連続 8 度目の
日本一達成
- ・平成 11 年
高齢者・障がい者への図書宅
配サービス
- ・平成 16 年
開館後図書貸し出し 200 万冊
達成
- ・平成 21 年
開館 25 周年記念事業開催
- ・平成 24 年
図書館振興計画策定

図書館がめざす四つの柱

1. 本との出会いの場
↳ 図書館で知識と出会う
新鮮で魅力ある資料を充実させていき、その資料を利用者に伝える。
2. 人とのふれ合いの場
↳ 図書館に仲間がいる
豊富な資料と出会う場や個人・グループなどが学習・交流できる場など、本と情報を介して多くの方が交流できる場とする。
3. 学びの場
↳ 図書館で情報を得る・発信できる
さまざまな情報媒体資料への対応も備えておく。
4. 人にやさしい場
↳ 図書館には安心がある
子どもたちや高齢の方、さらに障がいのある方など来館するすべての人が、安全で安心して利用できる施設の整備をする。

蔵書目標 9 万 1, 000 冊

この四つの柱を軸とし、平成 38 年度の蔵書目標冊数を 9 万 1, 000 冊に設定したほか、交流や憩いなど「まちのサロンの場」としての整備、情報発信機能の充実など図書館サービス計画や、低い書架の配置や多目的・視聴覚ホールの整備、飲食・休憩ラウンジ整備など施設整備計画を盛り込んでいます。

増改築に向けた用地を取得

また町では、現敷地の東側民有地約 6 00 m²を昨年購入し、現敷地と合わせ約 1, 590 m²とし、現在地での増改築に備えました。

建設計画検討会議を設置

策定された振興計画を受けて、教育委員会では、「訓子府町図書館建設計画検討会議」を設置し、振興計画の構想を具現化していく考えで、新しい訓子府町図書館の誕生へ歩み始めました。

老朽・狭あい解消し サービス充実した まちのサロンに

これからの 図書館が

めざすもの



図書館振興計画でできる

図書館の将来のめざすべき姿を描いた「訓子府町図書館振興計画」が策定されました。ハード面の施設の増改築をはじめ、本や人との出会い・ふれあい機能を充実したソフト面の整備もめざしています。

現在の図書館は、昭和 59 年 11 月に開館しました。3 ページの歩みにもありますが、7 年連続で 8 回も図書貸出率が日本一となるなど「みんなの図書館」として多くの方に利用され、地域に根ざした図書館となっています。

活発だった策定委員会の活動

平成 21 年度に開館 25 周年を迎えた図書館に、利用者の方から施設の老朽化や蔵書を増やしてほしいといった要望があり、教育委員会が「利用者アンケート」を実施しました。

この結果、さまざまな要望、意見、課題が出され、教育委員会は、町民各層による図書館振興計画策定委員会を平成 23 年度に立ち上げ、7 回の会議をはじめ、委員による先進図書館の視察研修、図書館づくりアンケートや児童・生徒からの意見・要望聴取などを行ってきました。

振興計画を町長へ



5 月 30 日に策定委員会から町長に振興計画が手渡されました。

振興計画では、現図書館の課題を浮き彫りにし、ハード・ソフト両面にわたり将来像を描いています。

その課題は、施設の老朽、狭あいが中心です。開館 27 年が経過し、施設そのものが老朽化しているほか、多くの方が来館したときには閲覧スペースが狭いことなどが課題となっています。さらに資料の充実や情報発信などソフト機能の充実も求めています。

これらを踏まえ、振興計画では、「本と情報を仲立ちとした人の交わりと地域づくりをめざして」をテーマとし、「訓子府町図書館がめざすもの」として四つの柱を設定しました。

